



第7号
2006年1月13日

みなさまこんにちは。札幌市観光企画課の武田です。今年は例年になく本州でも雪が多いようです。札幌は今シーズンは非常に寒く毎日のように氷点下の日が続いています。今月の「もぎたてさっぽろ」はそんな寒い寒い冬を楽しむための冬の楽しみ特集です。

☆☆今月のトピックス☆☆

- 1 さっぽろ雪まつりの見どころ特集
- 2 札幌で雪遊びPart1～チューブすべり
- 3 ようこそさっぽろ1月の特集

1 さっぽろ雪まつりの見どころ特集

いよいよさっぽろ雪まつりの季節到来です！

12月末に大雪氷像の模型発表、1月7日からは雪の輸送が開始され、雪像制作が本格的に始まりました。今年の雪まつりのみどころを模型写真とともにご紹介します。

まず、大通会場。丁目ごとにテーマが決まっており、大雪像5基、大氷像2基、中雪像7基、小雪氷像183基の計197基。

1丁目は巨大なイカとタコがトリノオリンピック日本選手団と2006FIFAワールドカップ日本代表チームを応援している「がんばれ！日本！」(中雪像)。

2丁目は大氷像「世界遺産アンコールワット」。氷の透明な美しさをライトアップや音楽によって最大限に引き出し、荘厳な遺跡を表現します。

3丁目は、ちびっこの歓声と笑顔に包まれる広場。食品メーカーのキャラクターとしておなじみの「ひよこちゃんの宇宙遊泳」(中雪像)と小さなお子様など家族みんなで楽しめる「ともだちすべり台」(中雪像)です。

4丁目は、精巧で迫力ある大雪像が2基。ひとつは「ドリーム 藍ランド・OKINAWA」と題し、日本女子プロゴルフ界で、人気・実力共にナンバー1の宮里藍選手の大雪像をメインに、1992年、世界自然遺産の首里城跡に再建された首里城正殿と魔物や災害から人々を守るシーサーなど、藍ちゃんの生まれ故郷の南国沖縄を表現します。



そしてもうひとつは「ナルニア国物語 第1章 ライオンと魔女」。全7巻からなる英国ファンタジー巨編がウォルト・ディズニーにより空前のスケールで映画化。今年3月の公開に先駆けて、雪まつり4丁目広場で雪像として登場いたします。



5丁目は、中雪像と大氷像がきらびやかに盛り上げます。中雪像は、2007年、アジアで初めて開催される2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会に向けて、マスコットキャラクターのノルッキーをメインに、スキージャンプ台を配置した「世界ノルディック2007 飛べ、走れ、雪のステージ」。

そして大氷像は、2004年にオーストラリアとして初めて世界文化遺産として登録されたメルボルンのシンボル「ロイヤル・エキシビション・ビル」。特徴はビザンチン様式、ロマネスク様式、ルネッサンス様式の各建築様式を複合したスタイルで、中央に大聖堂状のドームを備えています。



7丁目は、日本・オーストラリア交流年を記念して、オーストラリアを代表するエドワード王朝風の堂々たる鉄道駅「フリンダース・ストリート駅」(大雪像)とアボリジニの言葉で「水は飲まない」と言う意味をもつと考えられているコアラをテーマにした「コアラのマーチ」(中雪像)です。



8丁目は飛鳥時代に造られた世界最古の木造建築物「法隆寺 金堂」(大雪像)。今回制作する金堂は、建造物保護のために後年付もこしけられた裳階屋根を取り除き本来在るエンタシスの柱(パルテノン神殿等に見られる胴張りの柱)を現わし建築当時の姿を再現し、おぎょう うんぎょう阿形、吽形の金剛力士像を左右に配置します。



9丁目は、アラスカに住む人達のイグルー(かまくら)とその地域に生息する白熊親子を表現した「白熊親子とイグルー(かまくら)」(中雪像)。子供達も楽しめるすべり台も制作されます。

10丁目は2基の雪像で盛り上げます。ひとつは、「ハッピー台湾」と題し、台湾のナンバー1を集めた大雪像。鎌倉大仏の約2倍もあり、台湾最大、アジアでも指折りの大きさの「八卦山大仏」、世界四大博物館のひとつ「国立故宮博物院」、世界一の高さ508mを誇る建物「TAIPEI 101」、標高は3,952mと富士山よりも高い、台湾中央にそびえる最高峰「玉山」が一堂に会します。



もうひとつは2005年に世界遺産に登録され、人類共通の宝となった知床の自然と動物たちを表現した中雪像「知床の自然と動物たち」。

11丁目は、外国人チームが雪まつり期間中に小雪像をつくり競い合う国際広場。

12丁目は、市民の手による小雪像群が立ち並ぶ市民の広場です。

すすきの会場は、毛がにやイカ、鮭など北の幸を埋め込んだ氷彫刻など100基の氷像が幻想的に街を彩ります。

今年から新たに加わったさとらんど会場は、「食・交流・遊び・体験」をコンセプトとして、新しい楽しみ方を提案します。子供から大人まで楽しめて人気を博しそうなのは、チューブを利用して滑走する100m級の雪の「巨大チューブすべり台」と、20m×50m高さが最大3mの雪でできた「雪の大迷路」。幼児用の氷のすべり台やジンギスカン鍋型すべり台も登場します。



その他、熱気球体験で札幌市を一望したり、スノーモービルが引っ張るラフティングボートで雪原を滑走したり、北海道発祥のパークゴルフを雪上で楽しんだり、食堂や屋台村で北海道の幸を満喫したり(これらはいずれも有料)と、これまでよりさらに北海道の魅力を存分に凝縮した会場が誕生します。

見どころ満載のリニューアルしたさっぽろ雪まつりは、2月6日(月)～12日(日)に開催されます。より詳しい情報はこちらをご覧ください。

<http://www.snowfes.com/>

2 札幌で雪遊びPart1～チューブすべり

札幌の冬の楽しみは雪まつりやスキーだけではなくありません。親子で雪遊びを楽しみたい方にお勧めなのが、滝野スノーワールドのチューブすべり。

ここには「ゴムスレー」専用の直線コースとスリル満点のS字コースがあり、最近では札幌市内のファミリーだけではなく、道外や東アジアの観光客も多く訪れる人気スポットです。

山の中なので市街地よりも気温は低いですが、防寒対策でしっかり着込んでさえいれば、濡れたりしませんので、スキーウェアのような格好をしていなくても大丈夫です。数は多くありませんが、大人用の防寒着の無料貸し出しも行っています(子供用はありません)。



オレンジ、青、緑など色とりどりのチューブを無料で借りてロープトゥ乗り場へ。見た目は重そうなチューブも雪の上なら子供でもラクに引っ張ることができます。大人が引くチューブの上で子供がニコニコしている光景も多く目にします。



ロープトゥを使って、親子を乗せたチューブはゲレンデ頂上へ(2人乗り可能)。



直線コースは5本。誰が言い出したわけではないのに、次に乗る人がチューブをコースに押し出してあげます。こんなところで地元の人との触れ合いも楽しめるかもしれません。

長さ200mの直線コースを滑走するチューブは、体重のバランスのせいか、チューブが横を向いたり、後ろ向きになったり、ちょっとしたメリーゴーランド状態。予想以上のスピードで滑り降りていきます。このスリルと疾走感は、大人も子供も大興奮。すぐにまたロープトラに並んでしまいたくなります。



ゲレンデはちょっとコワイというチビッコには、プッチそりコーナーもあり、プラスチックそりの無料貸出も行っています(持ち込みもOK)。



そのほかにも長さ250m、平均斜度7度の小さなお子様にも安心なファミリーゲレンデや、自分のレベルやその日の気分に合わせて選べる歩くスキーコースが4つ、滝野の冬景色を楽しめるスノーシューエリアなど、まさに雪遊びのパラダイス。ゲレンデスキー、歩くスキー、スノーシューも貸し出しをしていますので、手ぶらで雪遊びを楽しめます。

アクセスは、市内中心部から地下鉄南北線利用「真駒内」駅で下車(所要10分)、真駒内から中央バス滝野線(真102または南92)を利用し「すずらん公園東口」下車(所要30分)です。ただし、バスは1時間に1本程度しかありませんので、行きは真駒内駅からタクシー利用(料金目安3,500円)し、帰りはバスの時間に合わせて時間の許す限り満喫することをお勧めします。

滝野スノーワールドの詳しい情報はこちらをご覧ください。

・公式サイト

<http://www.takinopark.com/>

・「ようこそさっぽろ」での紹介記事

http://www.welcome.city.sapporo.jp/feature/05_02/takino.html

3 ようこそさっぽろ 1月の特集

